

令和3年度

東郷中だより

学力特集号

令和3年11月26日
北九州市立東郷中学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	・「話すこと・聞くこと」に関する問題は、おおむねよくできている。 ・文章を読み、作者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書くことに苦手意識があり、無回答率が高い。
数学	・全体的に正答率が低い傾向にある。 ・事柄が成り立つ理由や事柄の特徴についての数学的な説明などを、言葉で表現することを苦手としている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・スマートフォンやコンピュータの利用に関して、7割程度の生徒は、家庭での約束を守って使用している。 ・1日当たりのテレビゲーム(PC、スマートフォンを使ったゲームを含む)をする時間が3時間以上である生徒の割合が、4割超で、スマートフォンの利用について、さらなる啓発が必要である。 ・将来の夢や目標を持っている生徒は6割弱で、全国平均を下回っている。将来に目を向けさせ、目標や夢の実現のために努力するよう指導する必要がある。 ・1日当たりの家庭学習の時間が、1時間以下の生徒が約4割いる。各教科の宿題や東郷ノートなどを活用し、家庭学習の定着を図っていく。 ・全ての生徒が、いじめはどんな理由があってもしてはいけないと思っている。小中連携しての「いじめ撲滅」の取組の成果である。今後も継続した取組を行う。 ・ほぼ全ての生徒が、友達と協力することは楽しいと思っている。コロナ禍ではあるが、今後も学校行事などを工夫し、協力する活動を行っていく。 ・話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりできていると思っている生徒は、約6割である。 ・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができていると思っている生徒が6割、できていないと思っている生徒が4割いる。 ・9割を超える生徒が、学校でICT(タブレット端末等)を使って意見交換したりや調べたりすることは、勉強の役に立つと思っている。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による休校期間中、勉強に不安を感じていた生徒が、全体の75%いる。不安解消のため、授業等で丁寧な指導を心がける。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・授業の終末に「振り返り」の視点を示し、自身の学習を振り返り、成長を実感することができるようにする。
- ・朝自習や東郷タイムなどで、基礎基本の定着を図る。
- ・コロナ禍であっても、タブレット端末を活用するなど、話し合い以外の方法も取り入れ、考えの交流ができるように工夫をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の定着や充実に向け、具体的な課題も提示し、東郷ノートの活用を促進する。また、効果的な学習に取り組んでいるノートを紹介し、学習意欲を喚起する。
- ・スマートフォンの利用(使用時間、使用方法など)について、随時、家庭内で見直し、適切な利用をするように授業や配布物等で啓発する。